

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について
～滝川市立小学校、中学校の学力の状況等～

滝川市教育委員会
(担当：教育総務課)

1 調査の概要

- (1) 実施期日 令和5年4月18日(火)
- (2) 調査の対象学年
・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- (3) 調査の内容
①教科に関する調査(国語、算数・数学)
小学校(国語：14問、算数：16問)
中学校(国語：15問、数学：15問、英語：17問)
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- (4) 参加状況(悉皆調査)
小学校6校 中学校3校
- (5) 参加児童生徒数(下表)

小学校第6学年	学 校	対象児童数	受験者数	未受験数	中学校第3学年	学 校	対象生徒数	受験者数	未受験数
	滝川第一小	34	30	4		江陵中	110	99	11
	滝川第二小	52	49	3		明苑中	115	109	6
	滝川第三小	60	53	7		開西中	45	42	3
	西小	31	31	0					
	江部乙小	12	11	1					
	東小	96	91	5					
	計	285	265	20		計	270	250	20
	参加率	93. 0%				参加率	92. 6%		

2 教科に関する調査の結果

全国・全道の平均正答率に対し、本市の児童生徒の平均正答率を
上回っている(5%以上)、やや上回っている(3%以上5%未満)、
同程度(上位)(1%以上3%未満)、同程度(±1%未満)、同程度(下位)(-3%より上-1%以下)
やや下回っている(-5%より上-3%以下)、下回っている(-5%以下) で示した。

(1) 小学校

①【国語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（67.2%）、全道の平均正答率（66%）と同程度（下位）の正答率である。

②【算数】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（62.5%）と同程度（下位）、全道の平均正答率（61%）と同程度の正答率である。

(2) 中学校

①【国語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（69.8%）、全道の平均正答率（69%）を下回っている。

②【数学】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（51.0%）、全道の平均正答率（49%）を下回っている。

③【英語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（45.6%）をやや下回り、全道の平均正答率（44%）と同程度（下位）の正答率である。

※文部科学省の発表に基づき、全国の平均正答率は小数第1位まで、全道の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。

3 滝川市立小学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：6校、児童数：285名）

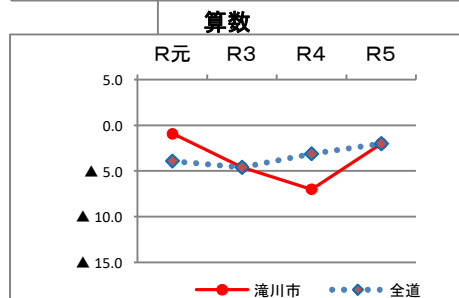
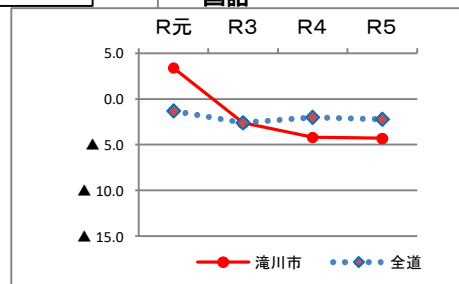
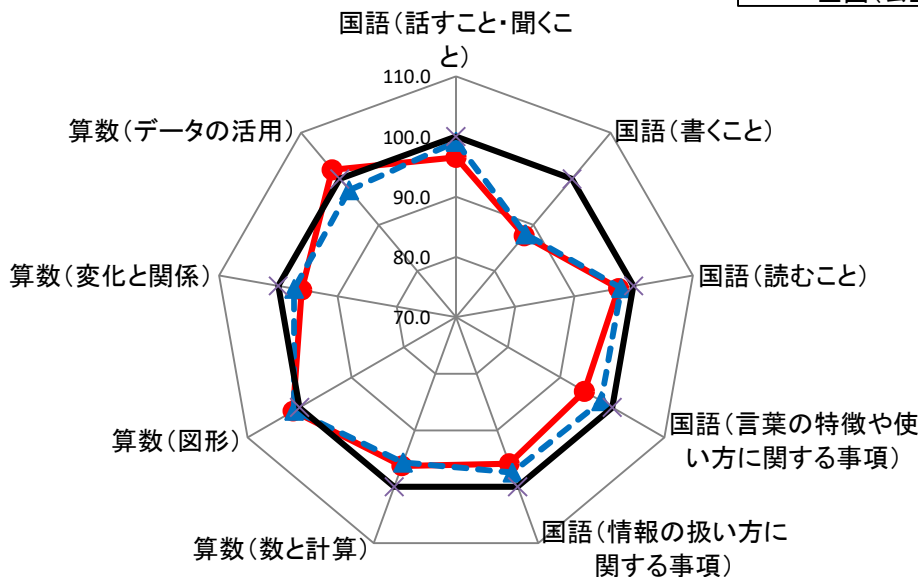
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものの（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）

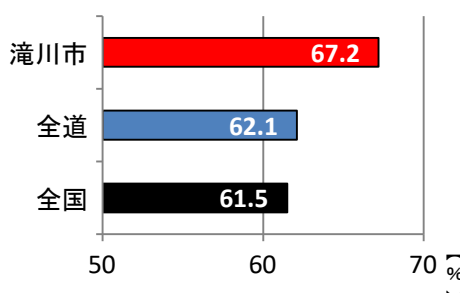
● 滝川市教育委員会
▲ 北海道（公立）
✕ 全国（公立）

※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したものの。令和2年度の調査は中止。

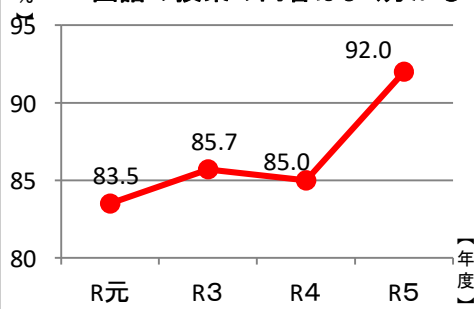
国語



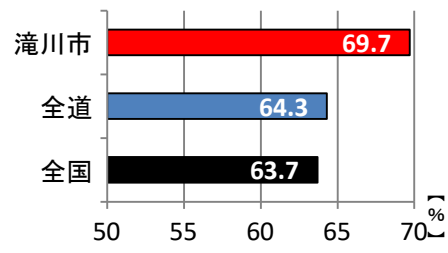
国語の勉強は好き



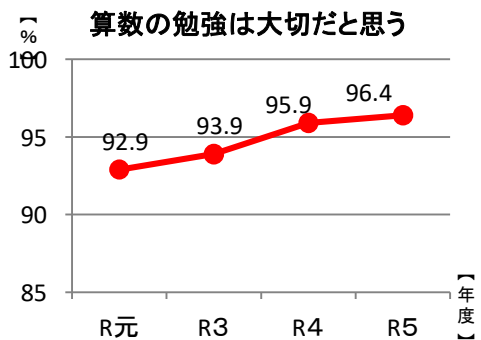
国語の授業の内容はよく分かる



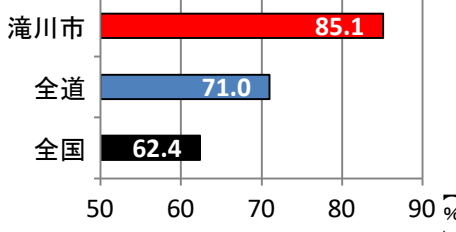
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している



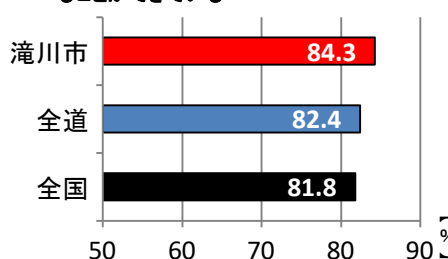
算数の勉強は大切だと思う



PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



【分析】

教科	国語、算数ともに平均正答率は全国・全道の平均正答率と同程度となった。領域別に見ると、算数の「図形」「データの活用」は、全国平均正答率を上回った。国語の「書くこと」は全道と同様に全国との差が最も大きく苦手としていることがわかる。また、国語の「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」、算数の「変化と関係」は全国・全道の平均を下回っており、課題が見られる。	学校は、児童の姿や地域の現状等に基づき、教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、学力向上プランの見直しを図りながら、組織的に授業改善に取り組んできた。引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、児童が自らの学びの変容を見取り、自らの学びの高まりを自覚できるようにすることが大切である。
児童質問紙	「国語の勉強は好き」と回答した割合は、全国・全道の平均を上回っており、「国語の授業の内容はよくわかる」と回答した割合は、昨年度と比較して7%の伸びが見られる。また、「算数の勉強が大切だと思う」と回答した割合は、0.5%の伸びが見られる。これらのことは、児童のよい点や改善点を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにした成果と考えられる。「PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」と回答した割合は、全国・全道の平均を大きく上回っており、学校教育の質の向上に向けたICTの活用が各学校で進められていることがわかる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合が、全国・全道の平均を上回っていることから、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が各学校で進められていると思われる。	
学校質問紙	すべての学校において「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」「令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」と回答した。	

【滝川市の学力向上策】

- 個に応じた学びの支援のため、「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
- ティーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、一人一人の児童が抱える学習のつまずきの解消や発展的な学習の充実に取り組んでいる。
- 各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。 ※校区内の小学校と連携して作成した手引を用いている学校もある。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習に取り組ませるとともに、児童の家庭学習への意欲化・定着化を図っている。
- 新しいかたちの学びの授業力向上推進事業を活用した学校間の取組を市内のすべての小学校に発信し、積極的な授業改善を推進している。
- 教職員の指導力向上、指導内容や指導方法等の改善を図るための教職員研修会を実施する。
- 1人1台端末などのICT機器を効果的に活用するため、教員の外部研修への参加や校内研修を促進し、児童生徒の学習意欲を引き出す質の高い授業を目指した授業改善を推進している。

4 滝川市立小学校の学習状況及び改善策（学校数：6校、児童数：285名）

自分にはよいところがあると

思う

【自尊心及び規範意識等全体の状況】

各児童質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出)

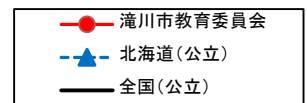
※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

将来の夢や目標を持っている

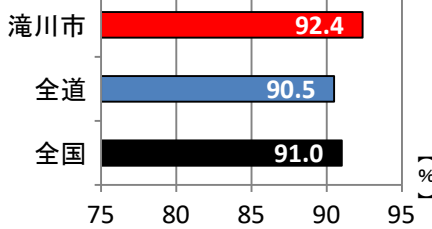
人の役に立つ人間になりたいと思う

人が困っているときは、進んで助けている

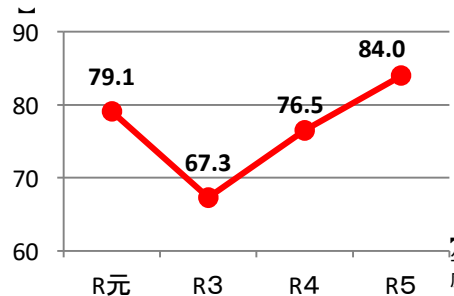


【挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況】(児童質問紙より)

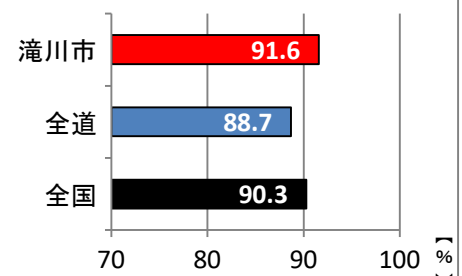
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある



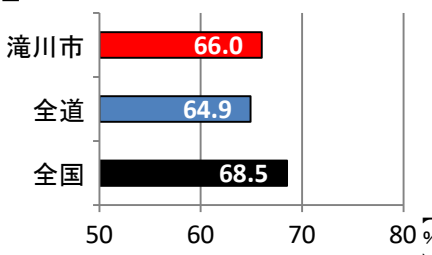
自分には、よいところがある



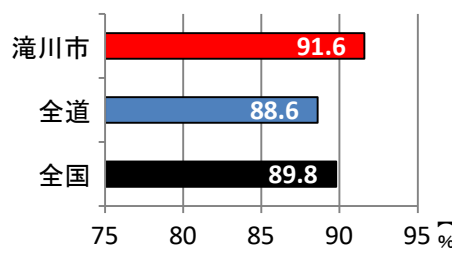
友達関係に満足している



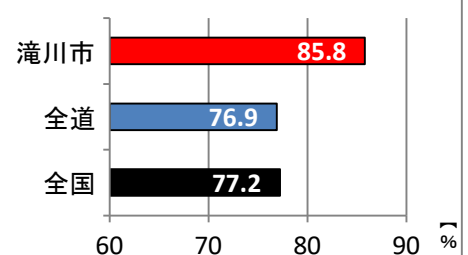
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う



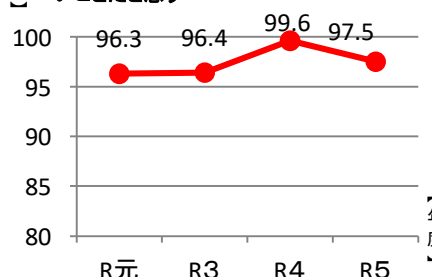
自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う



【分析】

【いじめへの意識】

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う



○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、各学校においてすべての子供たちの可能性を引き出す教育が展開され、児童が学びの喜びや成果を感じる経験を重ねることができていると思われる。
○「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、全道の割合を上回り、昨年度より7.5%の伸びが見られた。「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合も、全国・全道の平均を上回っていることから、子どもに寄り添った支援を行う中で、自己肯定感を高めることができていると思われる。
○「友達と協力するのは楽しい」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、学級会等において、友達の意見を尊重し、解決方法を決めていたことがその要因と考える。
○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した割合は、全国・全道を上回っている。日頃から児童生徒との関わりを大切に、児童が安心して生活できる環境づくりが進められるとともに、援助希求的態度の育成が図られていると思われる。

【滝川市の改善策】

○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全道平均を上回っているが、全国平均を下回っている。特別活動を要として、「キャリアパスポート」の積極的な活用等、小中9年間を見越したキャリア教育の推進を図る。
○自己有用感を高めるために、児童が他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受けとめることができるよう児童が主体的に取り組む協働的な活動を充実させ、子供たち同士が互いに認め合う雰囲気醸成を図る。
○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、昨年度を下回っている。滝川市は、その割合が100%となるよう目標を掲げて施策を推進している中で、各学校において児童・家庭への啓発活動及び児童による主体的な活動を推進するとともに、滝川の子供たちに「道徳的実践力」が育まれるよう「特別の教科 道徳」の質的転換を図る。

5 滝川市立小学校の学習状況及び改善策（学校数：6校、児童数：285名）

【家庭生活・学習習慣全体の状況】

質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上読書をする

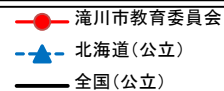
平日1日当たり1時間以上勉強している

朝食を毎日食べている

毎日、同じくらいの時刻に寝ている

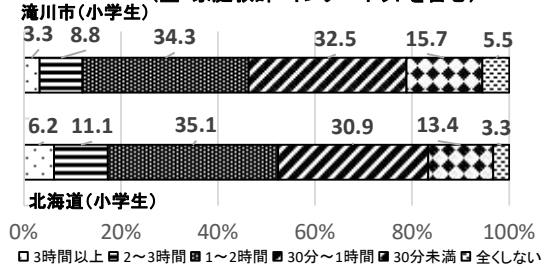
毎日、同じくらいの時刻に起きている

家で自分で計画を立てて勉強をしている

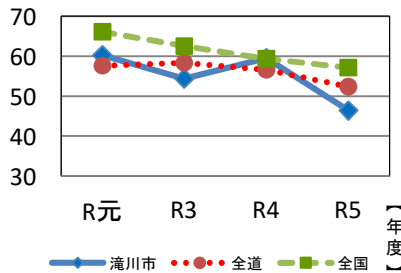


【学習時間等】（児童質問紙より）

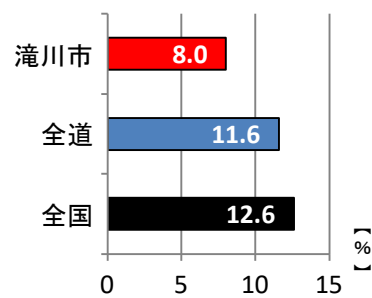
平日の1日当たりの家庭学習時間 （塾・家庭教師・インターネットを含む）



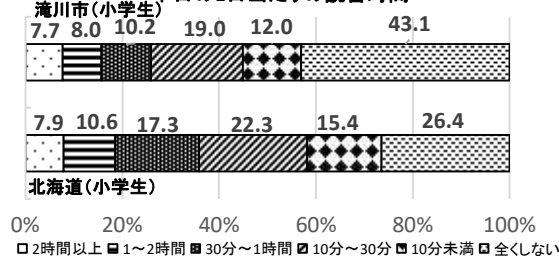
【% 平日1日当たり1時間以上勉強している】



週に1回以上新聞を読んでいる

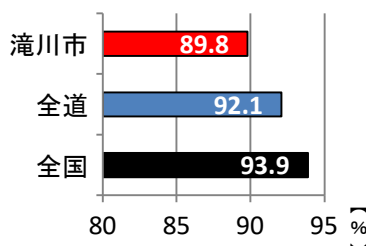


平日の1日当たりの読書時間

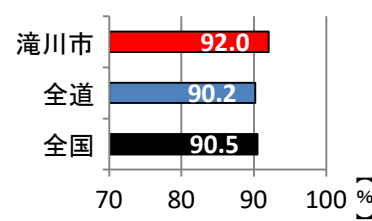


【基本的生活習慣】（児童質問紙より）

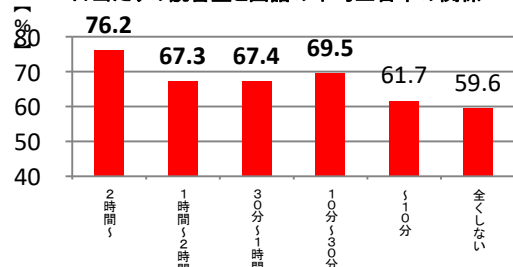
朝食を毎日食べている



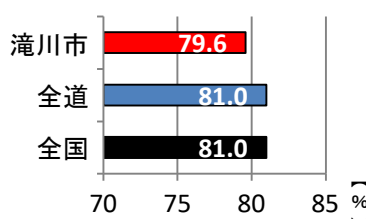
毎日、同じくらいの時刻に起きている



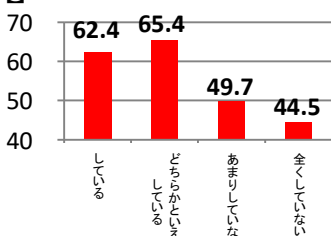
1日当たりの読書量と国語の平均正答率の関係



毎日、同じくらいの時刻に寝ている



毎日、同じくらいの時間に寝ていることと算数の正答率の関係



【分析及び改善策】

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒の割合は、全道の割合は下回ったものの、全国の割合を上回った。また、「平日1日当たり1時間以上勉強している」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回った。引き続き、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、各家庭と連携して推進したりするとともに、学校では生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えていく。

○「学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上読書をする」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を大きく上回り、1日当たりの読書量と国語の平均正答率には、相関関係が見られている。読書は、言葉を学ぶだけでなく、表現力や想像力を豊かにする上で欠かせないものであることから、今後、保護者の協力を得ながら、家庭等での読書活動を習慣化させる必要がある。

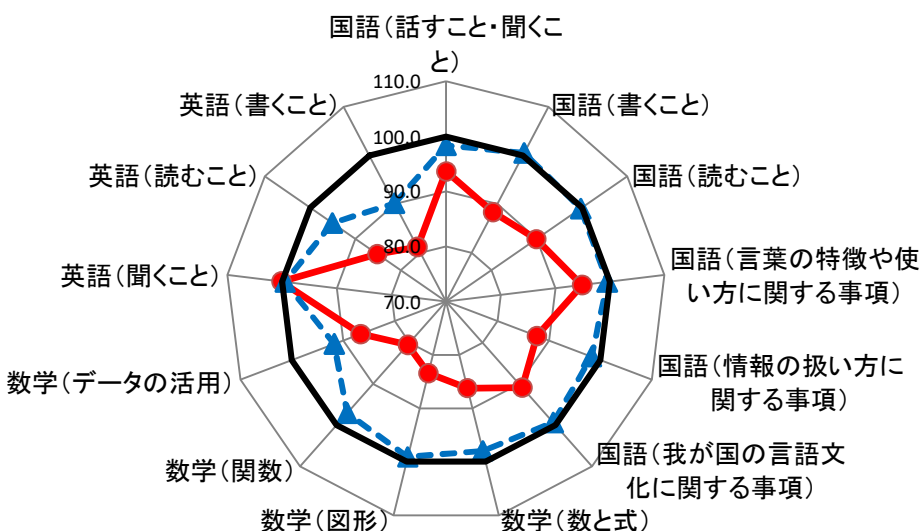
○「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回った。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回り、そのことと算数の平均正答率には、相関関係が見られている。そのため、望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携する必要がある。

○「週1回以上新聞を読んでいる」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回っている。社会に目を向けさせたり、多様な見方や考え方にに基づき、読解力・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたりするためにも、新聞等を活用した授業等を行うことが求められる。

6 滝川市立中学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：3校、生徒数：270名）

【教科全体の状況】

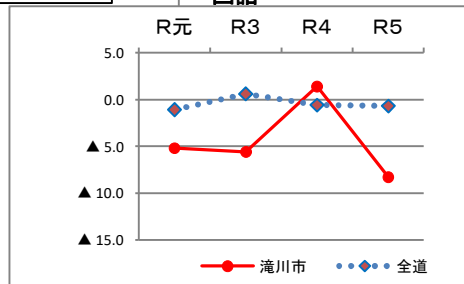
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものの（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）



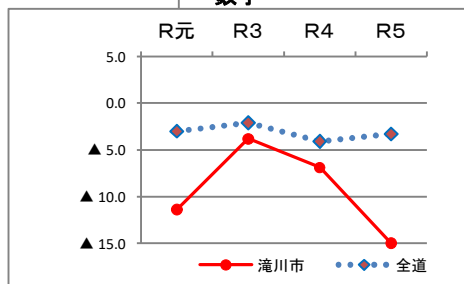
● 滝川市教育委員会
▲ 北海道（公立）
— 全国（公立）

※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したものの。令和2年度の調査は中止。

国語

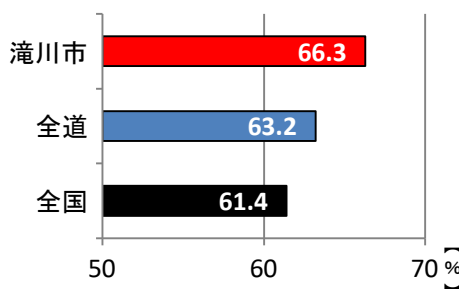


数学

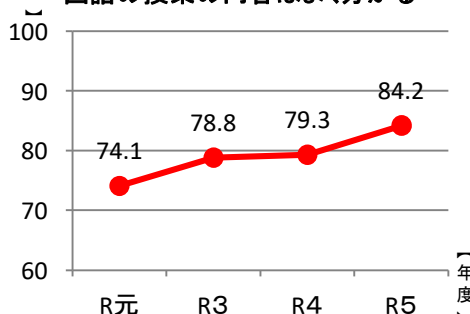


【生徒質問紙調査】

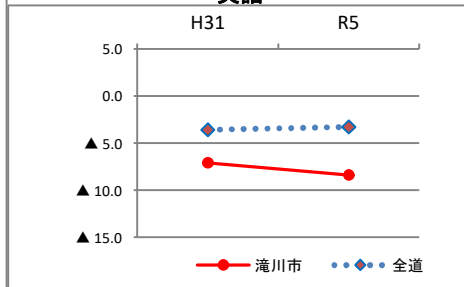
国語の勉強は好き



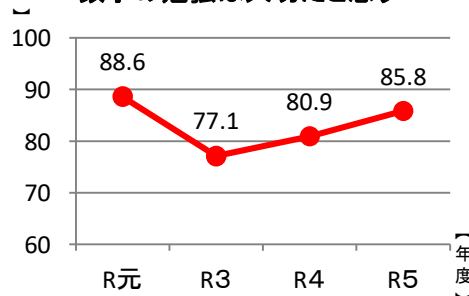
国語の授業の内容はよく分かる



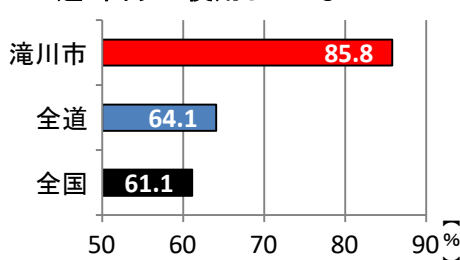
英語



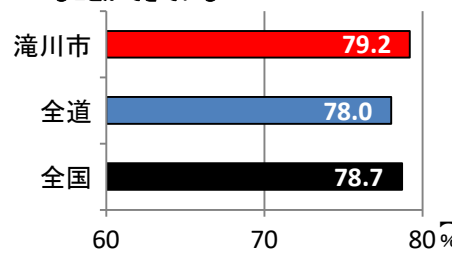
数学の勉強は大切だと思う



PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している



学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



【分析】

教科	国語、算数ともに平均正答率は、全国・全道の平均正答率を下回った。領域別にみると、英語の「聞くこと」は全国・全道の平均正答率を上回った。しかし、国語、数学については全て分野において全国・全道の平均正答率を下回った。また、数学の「関数」、英語の「書くこと」において、全国・全道の平均正答率との差が20%程度とかなり大きいことから、指導内容の分析を含めた改善が求められる。	学校は、生徒の姿や地域の現状等に基づき、教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、学力向上プランの見直しを図りながら、組織的に授業改善に取り組んできた。引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生徒が自らの学びの変容を見取り、自らの学びの高まりを自覚できるようにすることが大切である。
生徒質問紙	「国語の勉強は好き」と回答した割合は、全国・全道の平均を上回っており、「国語の授業の内容はよくわかる」と回答した割合は、昨年度と比較して4.9%の伸びが見られる。また、「数学の勉強が大切だと思う」と回答した割合は、昨年度と比較して4.9%の伸びが見られる。このことは、生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにした成果と考えられる。「PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」と回答した割合は、全国・全道の平均を大きく上回っており、学校教育の質の向上に向けたICTの活用が各学校で進められていることがわかる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した割合が、全国・全道の平均を上回っていることから、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が各学校で進められていると思われる。	
学校質問紙	すべての学校において「前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った」「前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用した」と回答した。	

【滝川市の学力向上策】

- 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
- 学力の二極化を解消するため、チーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、知識や技能を活用する力を育成している。
- 各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。 ※校区内の小学校と連携して作成した手引を用いている学校もある。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補完的・発展的な学習への取組を推進している。
- 小学校における新しいかたちの学びの授業力向上推進事業の取組を参考にした積極的な授業改善を推進している。
- 教職員の指導力向上、指導内容や指導方法等の改善を図るための教職員研修会を実施する。
- 1人1台端末などのICT機器を効果的に活用するため、教員の外部研修への参加や校内研修を促進し、児童生徒の学習意欲を引き出す質の高い授業を目指した授業改善を推進している。

7 滝川市立中学校の学習状況及び改善策（学校数：3校、生徒数：270名）

自分にはよいところがあると思う

【自尊感情及び規範意識等全体の状況】

各生徒質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出）
※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

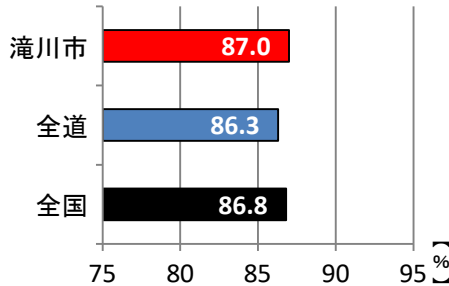
将来の夢や目標を持っている

人の役に立つ人間になりたいと思う

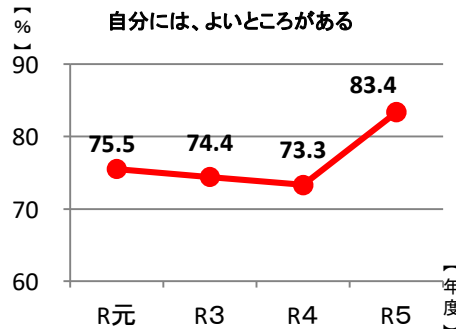
人が困っているときは、進んで助けている

【挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況】（児童質問紙より）

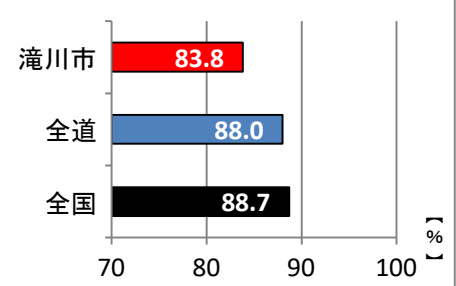
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある



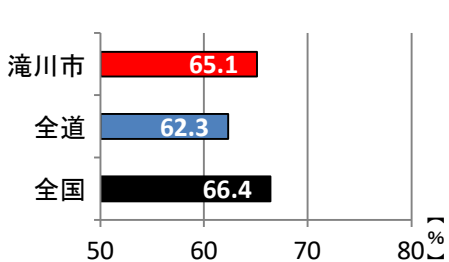
自分には、よいところがある



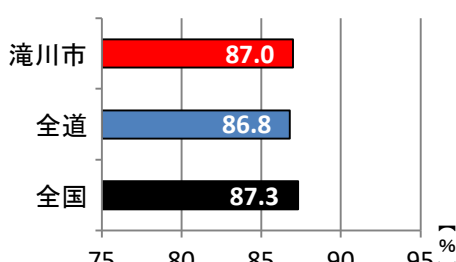
友達関係に満足している



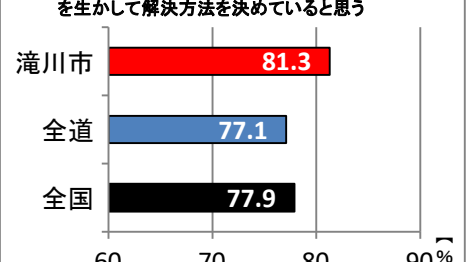
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う

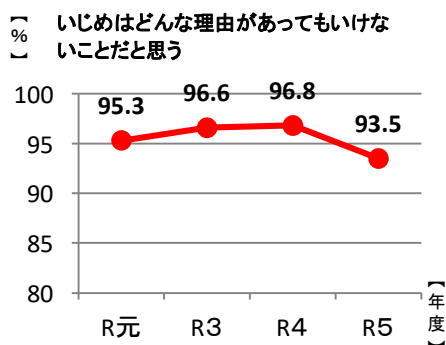


自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う



【分析】

【いじめへの意識】



○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、各学校においてすべての子供たちの可能性を引き出す教育が展開され、生徒が学びの喜びや成果を感じる経験を重ねることができていると思われる。
○「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、全道の割合を上回り、昨年度より10.1%の伸びが見られた。「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合も、全道の平均を上回っていることから、子どもに寄り添った支援を行う中で、自己肯定感を高めることができていると思われる。
○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全国・全道平均を下回っている。今後は、「キャリアパスポート」の積極的な活用等、小中9年間を見越したキャリア教育の推進が望まれる。
○「友達と協力するのは楽しい」と回答した割合は、全国・全道平均を下回った。しかし、学級会等において、友達の意見を尊重し、解決方法を決めている割合は全国・全道の平均を上回ったことから、今後もそのような機会を充実させることで、自己有用感の高まりにつながると考えられる。
○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した割合は、全道の平均を上回っているものの、全国の平均を下回っている。SOSの出し方に関する教育を推進するなど、援助希求能力の育成が図る必要がある。

【滝川市の改善策】

○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全国・全道平均を下回っている。特別活動を要として、「キャリアパスポート」の積極的な活用等、小中9年間を見越したキャリア教育の推進を図る。
○自己有用感を高めるために、生徒が他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受けとめることができるよう児童が主体的に取り組む協働的な活動を充実させ、子供たち同士が互いに認め合う雰囲気醸成を図る。
○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、昨年度を下回っている。滝川市は、その割合が100%となるよう目標を掲げて施策を推進している中で、各学校において児童・家庭への啓発活動及び児童による主体的な活動を推進するとともに、滝川の子供たちに「道徳的実践力」が育まれるよう「特別の教科 道徳」の質的転換を図る。

8 滝川市立中学校の学習状況及び改善策(学校数:3校、生徒数:270名)

【家庭生活・学習習慣全体の状況】

質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上読書をする

平日1日当たり1時間以上勉強している

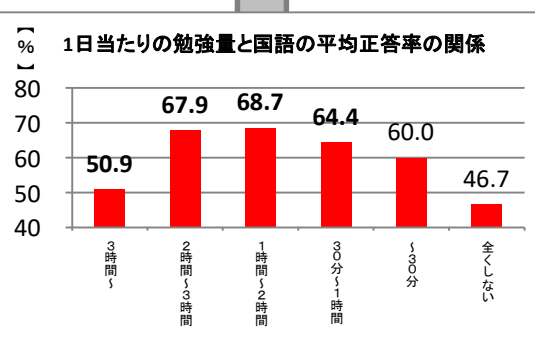
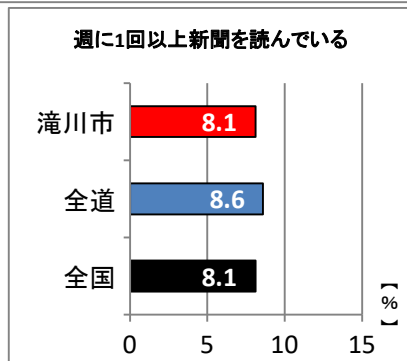
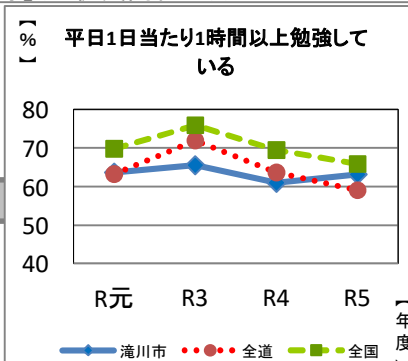
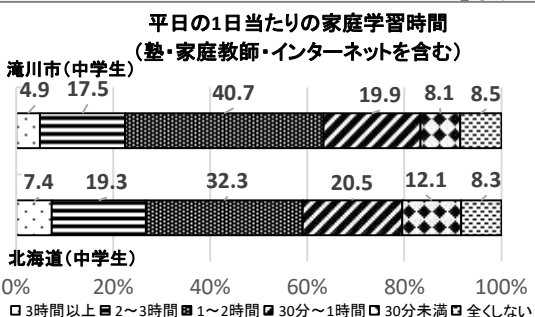
朝食を毎日食べている

毎日、同じくらいの時刻に寝ている

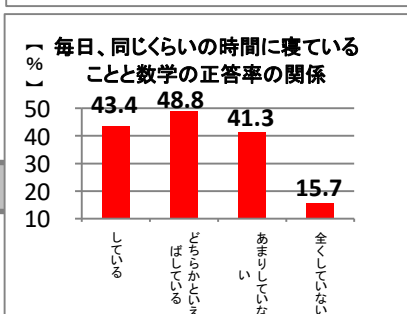
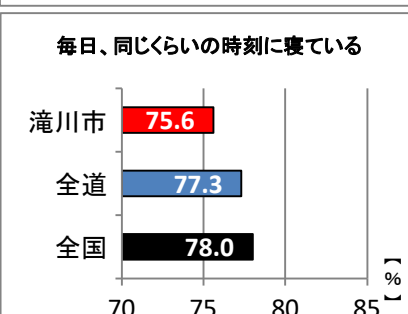
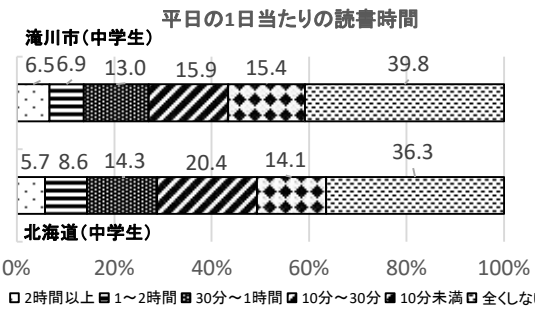
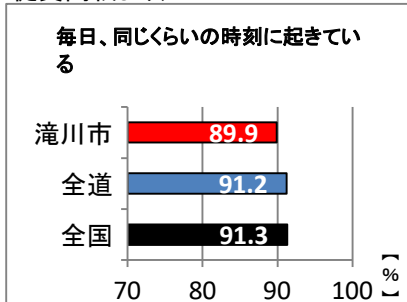
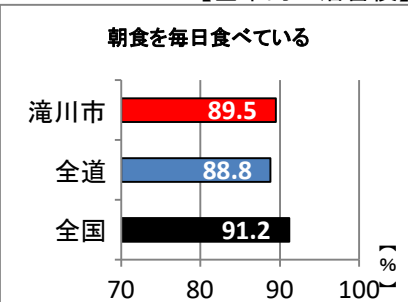
毎日、同じくらいの時刻に起きている

家で自分で計画を立てて勉強をしている

【学習時間等】(生徒質問紙より)



【基本的生活習慣】(生徒質問紙より)



【分析及び改善策】

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を上回った。しかしながら、「平日1日当たり1時間以上勉強している」と回答した生徒の割合は、全道の割合を上回ったものの、全国の割合を下回り、1日あたりの勉強量と国語の平均正答率には、相関関係が見られている。引き続き、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、各家庭と連携して推進したりするとともに、学校では生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えていく。

○「学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上読書をする」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を大きく上回り、そのことと1日当たりの読書量と国語の平均正答率には、相関関係が見られている。読書は、言葉を学ぶだけでなく、表現力や想像力を豊かにする上で欠かせないものであることから、今後、保護者の協力を得ながら、家庭等での読書活動を習慣化する必要がある。

○「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回り、そのことと算数の平均正答率には、相関関係が見られている。そのため、望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携する必要がある。

○「週1回以上新聞を読んでいる」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回っている。社会に目を向けさせたり、多様な見方や考え方にに基づき、読解力・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたりするためにも、新聞等を活用した授業等を行うことが求められる。